



学校は移民を統合する助けになり得るのか？

- 学校における移民の生徒の割合が高いことが生徒の得点が低いことに関係しているのは、わずか数カ国にすぎない。そしてこの関係性のほとんどは、それらの学校における社会経済的背景の低い生徒の割合の高さによって説明できる。
- 出身国が同じで同等の社会経済的背景を持つ移民の生徒たちでも、学校システムが異なればしばしば成績も異なる。
- 移民の生徒の学校での成績と、彼らが若者に成長したときの教育と労働市場の成果の間には強い関係性がある。

この数ヶ月間、移民の人々が地中海の荒波の中を進もうとする姿や有刺鉄線の柵によじ登る姿など、劇的なシーンがテレビやソーシャルメディアにあふれている。彼ら移民を受け入れるかどうか、そしてその方法についての議論は、今のところ国境警備と受け入れ政策に焦点が当てられている。しかし同時に、この難局は統合政策を見直す好機として捉え、移民の人々が生産的な市民になるために公平な機会が与えられることを確認するべきである。現在、PISA調査から近年の膨大な移民の生徒たちに関する情報を得ることはできないが、2012年調査のデータより、移民の生徒が新しい社会に溶け込む助けとして学校は何ができるのかという点についての重要な教訓を得ることができる。

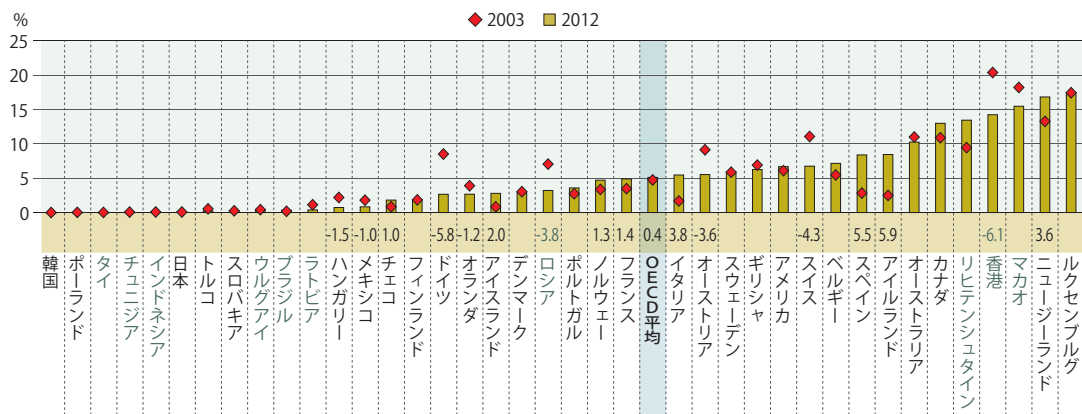
国外で生まれた生徒は増加しているが、その状況は主に数カ国に集中している。

PISA調査の結果を見ると、移民の生徒たちが学校でどのような成績を収め、また教育システムへどのような影響を与えるかについての誤った認識と事実の見分けができる。第一の誤った認識は、「過去数十年間にわたってOECD加盟国への移民の数が爆発的に増えた」というものであるが、データからは更に細かい違いが見られる。まず、国外で生まれた生徒の数の増加は、限られた数カ国に集中して起こっている。2003年から2012年のOECD平均では、移民第一世代(生徒もその両親も外国で生まれた世代)の割合は0.4ポイント増加している。この割合は、アイルランドではおよそ6ポイント、スペインでは5.5ポイント、イタリアでは4ポイントである。次に、カナダ、ルクセンブルグ、アメリカにおける生徒の人口構成の変化は、主に移民第二世代(生徒はその国で生まれ、その両親が外国で生まれた世代)が増加した結果である。

教育システムにおいて移民の割合が高いことは、必ずしも生徒の成績に影響しない。

第二の誤った認識は、「一定のレベル以上において、移民の生徒の割合が高いことが教育システムの成績に悪影響を与える」というものだ。しかしPISA調査のデータからは、OECD加盟国を通じて移民の生徒の割合と得点との間に統計的に有意な関連は見られない。

移民第一世代の生徒の割合の変化（2003年から2012年） 生徒の割合

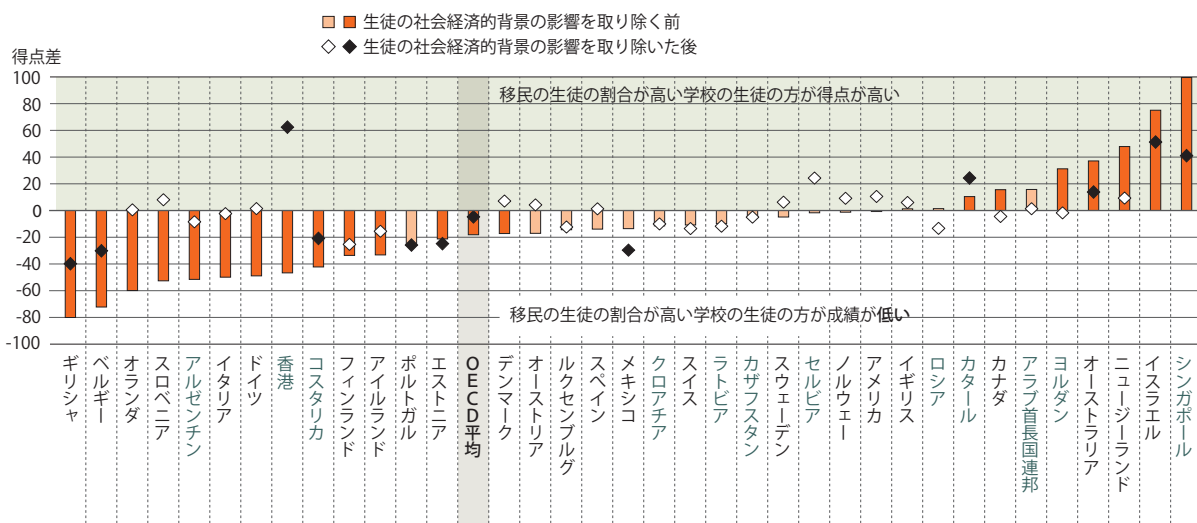


注：2003年と2012年を比較可能なデータを有する国または地域のみを記載。
 国または地域名の上の数字は2003年と2012年の移民第一世代の割合の差を示す。統計的な有意差のみを記載。
 OECD平均は比較可能なデータを有する加盟国の平均値。
 2012年の移民第一世代の生徒の割合が少ない順に左から国または地域を並べている。
 出典：OECD, PISA 2012 Database, Table II.3.4b.

StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888932964927>

生徒が移民であるかどうかということより、成績により大きく関係しているのは生徒の社会経済的背景である。これは各国内の結果において最も顕著に現れる。移民の生徒が集中している学校は、しばしば社会経済的背景が低い地域にある。例えばアメリカでは、全生徒の21%が移民の背景を持つが、社会経済的背景の低い学校ではその割合は40%になる。

社会経済的背景の低い生徒の割合と生徒の成績への影響 数学的リテラシーにおける移民の生徒の割合が高い学校と 移民の生徒がいない学校の得点差



注：濃い色は統計的な有意差があることを示す。
 生徒の4分の1以上が移民の生徒である学校を移民の割合が高い学校と定義。
 生徒の社会経済的背景の影響を取り除く前の、数学的リテラシーにおける移民の生徒の割合が高い学校と移民の生徒がいない学校の得点差が小さい順に左から国または地域を並べている。

出典：OECD, PISA 2012 Database, Table II.3.9.
 StatLink <http://dx.doi.org/10.1787/888932964927>

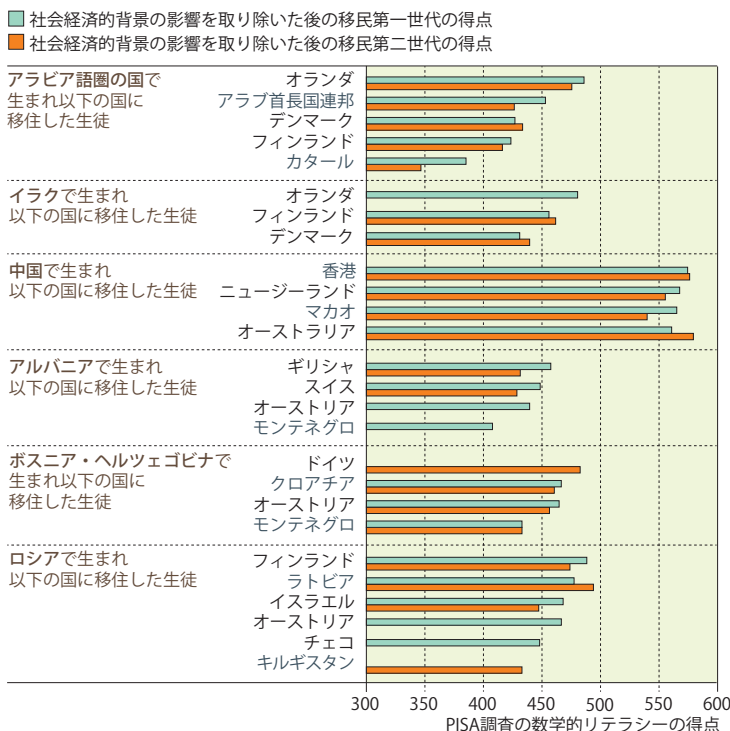


OECD加盟国で見ると、移民の生徒が25%以上の学校に通う生徒の数学的リテラシーの得点は、移民の生徒がいない学校と比べて18点低かった。ベルギー、ギリシャ、オランダでは、その二つのタイプの学校の差が最も大きい。生徒と学校の社会経済的背景の影響を取り除いた後では、移民の生徒の割合が高い学校と移民の生徒がいない学校の平均点の差は半分以下の5点となり、ほとんどの国で統計的に有意ではなくなる。つまり、移民の生徒とそうでない生徒両方の学力向上の妨げとなっているのは、その学校における移民の生徒の割合ではなく、むしろ社会経済的背景の低い生徒の割合であるということがPISA調査により明らかなのである。

移民受け入れ国の学校システムは移民の生徒の学力に影響を与えることができる。

出身国が同じで同等の社会経済的背景を持つ生徒でも、移民先の国が異なる場合は学力に差が生じているという事実からすると、学校システムは移民の生徒の学力的な成功において重要な役割を担っていると言える。アラビア語圏の国々からの移民でオランダに住んでいる生徒は、社会経済的背景の影響を取り除いた後の数学的リテラシーの得点が、カタールに移住した生徒より平均して100点高い。ギリシャに住むアルバニア人の生徒の数学的リテラシーの得点は、社会経済的背景が同等でモンテネグロに移住した生徒より50点高い。そしてこの差は、ギリシャとモンテネグロの平均的な得点差と非常に近い。中国で生まれた生徒は、幾つかの移民先で数学的リテラシーにおいてOECD加盟国の平均以上の成績を収めているが、香港に住む生徒の方がマカオに住む生徒より得点が高い傾向がある。移民先の国の選択と移民の生徒の得点に影響を及ぼすその他の社会経済的背景の違いによってもこれらのパターンは説明可能である。

出生国と移民先の国別の数学的リテラシーの移民の生徒の得点



注：推定値は2003年、2006年、2009年、2012年のPISA調査データベースの統合データから算出。移民グループと移民先の国の平均得点は社会経済的背景の違いの影響を取り除いている。これは同じ国から移住したすべての生徒と移民先の国のすべての移民以外の生徒が、平均的な生徒と同等の社会経済的背景を共有すると仮定した場合のグループの得点の期待値に相当する。移民先の国の生徒が20名以上のデータのみを記載。出典：OECD, PISA 2003, 2006, 2009, 2012 Databases.

移民の生徒の得点の経年変化を見ると、教育上の政策が社会的な統合政策を補完するということも示唆している。例えばドイツでは、10年未満の間に成績不振の移民の生徒の割合を11ポイント減らし、移民第二世代の生徒の数学的リテラシーの得点を46点上げることに成功した。これは正規の学校教育の1年以上の成果に相当する。(参照：PISA in Focus 53)

若い移民を学校で溶け込ませることは、長期的な利益を生み出す。

教育システムは多様な生徒が本来備えている課題を予測しておく必要がある。学校で習得するスキルは後の雇用適性及び社会参加に多大な影響を与えるため、移民の生徒への支援の遅れは損失を招く可能性がある。

PISA調査では同じ生徒の経年変化や世代間の教育成果の比較は行っていない。しかしほとんどの国で移民第一世代と第二世代の得点には強い関連があることはデータより明らかである。また2003年と2012年の比較で移民の

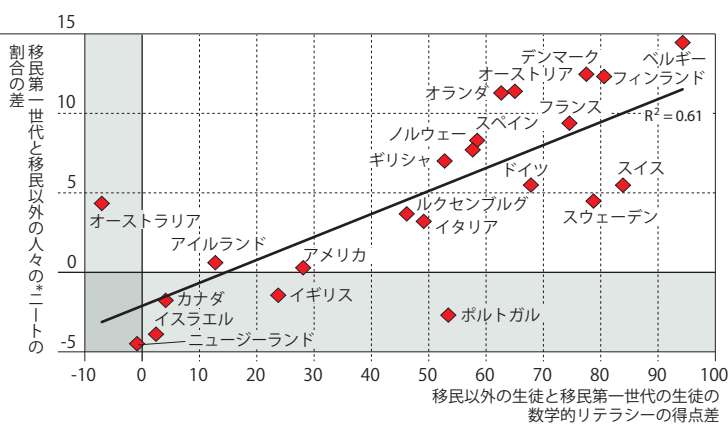


PISA

IN FOCUS



移民の背景の有無による数学的リテラシーの得点と ニート*の割合



*ニートの割合は2013年に15歳から34歳で就学・就労・職業訓練のいずれも行っていない人の割合を表す。
注：数学的リテラシーの得点差は2003年、2006年、2009年、2012年のPISA調査データベースの統合データから算出。
出典：PISA 2003, 2006, 2009, 2012 Databases; OECD/European Union (2015), *Indicators of Immigrant Integration 2015: Settling In*, OECD Publishing, Paris.

生徒とそれ以外の生徒の数学的リテラシーにおける得点差が大きいほど、2013年の二つのグループの就学・就労・職業訓練のいずれも行っていない(ニート)若者の割合の差が大きい。この関係からわかるのは、学校で移民の生徒がどのように過ごすかによって、彼らが高等教育に進むかどうか、そして(または)移民先で生産的な仕事に就くかどうかは確定するというのである。

学校での教育的そして社会的な統合の障壁が早急に取り除かれれば、移民の生徒は教育システムに不可欠な要素となり、移民先の国にとって貴重な存在になり得る。学校での教育的な多様性の受入れや言語支援プログラムを促進する教育政策が、移民第一世代にとってスムーズに新しい環境に溶け込む助けとなり、それが容易になることで結果として第二世代にとっての助けにもなるのだ。

結論：教育システムは移民の統合において重要な役割を果たす。困難を感じている生徒の経験的知識と心理社会的なニーズに応えるプログラムは、早い段階で提供されるべきである。そうすることで知識の差異とコミュニケーションの困難さが社会排除の要因となるのを防ぐことができる。社会経済的背景が成績に与える影響を軽減するための全体的な努力をより続けるとともに、これらの的を絞った介入はすべての人々にとって最終的な利益となり得る。

本稿に関するお問合せ先

担当: Mario Piacentini (Mario.Piacentini@oecd.org)

出典: OECD (2013), *PISA 2012 Results: Excellence through Equity (Volume II): Giving Every Student the Chance to Succeed*, PISA, OECD Publishing, Paris.

PISA in Focus no. 53, *Can the performance gap between immigrant and non-immigrant students be closed?*, OECD Publishing, Paris. OECD/European Union (2015), *Indicators of Immigrant Integration 2015: Settling In*, OECD Publishing, Paris.

参考サイト

www.pisa.oecd.org

www.oecd.org/pisa/infocus

[Adults in Focus](#)

[Education Indicators in Focus](#)

[Teaching in Focus](#)

次回テーマ:

教師になりたいと思っているのは誰か?

Photo credits: ©khoa vu/Flickr/Getty Images ©Shutterstock/Kzenon ©Simon Jarratt/Corbis

This paper is published under the responsibility of the Secretary-General of the OECD. The opinions expressed and the arguments employed herein do not necessarily reflect the official views of OECD member countries.

This document and any map included herein are without prejudice to the status of or sovereignty over any territory, to the delimitation of international frontiers and boundaries and to the name of any territory, city or area.

The statistical data for Israel are supplied by and under the responsibility of the relevant Israeli authorities. The use of such data by the OECD is without prejudice to the status of the Golan Heights, East Jerusalem and Israeli settlements in the West Bank under the terms of international law.